



会長 築瀬 敦

= 築瀬 敦 会長スローガン =

“ロータリーのマジックを信じ 地域にマジックを掛けよう”

- 例会日: 毎週水曜日 12:30~
- 例会場: ホテルシーズン日南
- 事務局: 日南市岩崎3丁目4番地1-2号 Itten堀川ビル2F 創客創人センター内
- TEL: 0987-22-3363 FAX: 0987-22-3515

第3423例会	No.42	2025.6.4	
点鐘・ロータリーソング	12時30分	「君が代」 「奉仕の理想」	
四つのテスト	西島元利君		
ゲスト	竹井克己様 (竹井醸造合名会社)		
ビジター	築瀬 貢様 (日南中央ロータリークラブ会長) 河野善弘様 (日南中央ロータリークラブ幹事) 英 保彦様 (串間ロータリークラブ会長)		
例会行事	宮崎県南部グループ合同 ロータリー奉仕デー 日南ロータリークラブ 翡翠賞授賞式		

## 会長時間



DEIの中から今日はインクルージョンについてお話しします。社会保険労務士・キャリアコンサルタント/村井真子さんという方の記事が、わかりやすかったのでご紹介します。インクルージョンとは、社会において多様な人材が尊重されながら共存していくという意味の言葉です。直訳すると、包括、包摂（ほうせつ）、受容という意味で、持続可能な開発目標（SDGs）の理念である「誰一人取り残さない」とも通じる考え方です。インクルージョンはさまざまな分野で使われる言葉のため、明確な定義は困難ですが、いずれも「排除・排斥」というキーワードの対義語として用いられることが特徴です。具体例として、企業において少数派である人々、外国籍の人や障がい者などが、ほかの従業員と公平に評価されていること地域において外国籍の住民も自治活動で意思決定に参加できること障がいがある人であっても、自分が必要としたときに適切に情報にアクセスできたり、必要な移動手段を確保できたりしていること多数派と違っていても「その場においていいのだ」と少数派の人が心から思えること調査などで「自分が当てはまる状況や選択肢がない」という状況が生まれにくいこと、こういったことがインクルージョンが実現している状況といえます。インクルージョンという概念は、1970年代のフランスで発生した課題の一つであるソーシャル・エクスクルージョン、日本語で社会的排除の対立概念として普及しました。この時期、フランスでは移民の増加や産業構造の変化によって生じた、貧困や情報格差などの課題が表出しており、そのような課題に悩まされる人々は適切な支援が受けられない状態でした。こうした問題を是正するため、ソーシャル・インクルージョン=社会的包摂という考え方が生まれたのです。その後、ソーシャル・インクルージョンが福祉や教育などの分野でも取り入れられて広まりました。近年ではダイバーシティマネジメントの観点から、ビジネスの領域でも注目されています。こうして各分野に広まったインクルージョンは、分野によって微妙に使われ方が異なっています。例えば、福祉分野におけるインクルージョンは「社会的包摂」とも呼ばれ、特に障がい者福祉の分野で使われています。障がいのある人もない人も、先日お話ししましたノーマライゼーション、互いに支え合い、地域で生き生きと明る

く豊かに暮らしていける社会を目指す理念とあいまって、障がい者だけではなく社会的弱者になりがちな、ひとり親世帯・高齢者・外国籍・LGBTQ+などの少数派の人々が、適切な支援サービスを受けられる社会の実現が目指されています。教育分野におけるインクルージョンは、主に障がいを持つ子どもに対するインクルーシブ教育の分野で使われています。インクルーシブ教育とは、障がいのある人もない人も共に学ぶ仕組みのことで、人間の多様性を尊重し、障がい者が精神的・肉体的な能力を可能な範囲で最大限発揮して自由な社会へ参加できることを目的としています。2006年、国連総会において「障害者の権利に関する条約」が採択され、インクルーシブ教育において障がいのある子どもを教育から排除しないこと、合理的配慮が提供されることなどが明示されました。ビジネス分野におけるインクルージョンはダイバーシティ（多様性）の課題の解決策として使われています。高度経済成長期の日本は、育ってきた環境や価値観が近い人材を大量雇用することによって合理的なマネジメントをおこない、大きな成果を上げました。しかし、少子化が進むにつれて労働力が不足し、その解消のためにダイバーシティの考え方が取り入れられるようになりました。そんななか、異質な人材をどのように受け入れていくかという課題が生じ、その解決のアプローチとしてインクルージョンの概念が広まりました。現在の企業において、インクルージョンは特に重視される考え方です。その理由について、代表的なものが五つ紹介してあります。

1つ目は、ダイバーシティの実効性を高めるため。

「ダイバーシティがある職場＝インクルージョンがある職場」とは限りません。同じような考え方や価値観を持った人が集まった組織は、多様性を受け入れる準備ができていないこともあり、かえって少数派にとって排他的な組織になってしまうこともあり得ます。そのため、ダイバーシティをおこなうのであれば、同時にインクルージョンによって少数派の立場や意見も尊重する職場風土を作る必要があります。

2つ目は、優秀な人材の確保・定着のため。

社員一人ひとりが自分の価値を認められ、尊重されていると感じながら働ける環境を整備することは、人材の確保定着のためにも極めて重要です。ある民間会社の調査によると、18歳から34歳のグループでは約7割が「上司にDEIへの理解がない職場だと分かったら離職を検討する」と回答しています。

3つ目は、投資家からの評価を高めるため。

機関投資家のガイドラインである責任投資原則（PRI）は、2022年の「投資家のための主要な行動分野」において、企業評価におけるポイントとしてジェンダー・ダイバーシティだけでなくインクルージョンを重視することを提案しています。こうした動きから、資金調達面でもインクルージョンが重視されています。

4つめは、人権デューデリジェンスの推進のため。

また新しい言葉が出てきましたが、人権デューデリジェンスとは、企業が人権の侵害を軽減するための継続的なプロセスのことで、企業が人権侵害のリスクを特定し、それを防止・軽減・評価し、またどのように対処したかについて説明・開示していく一連の取り組みのことで、このなかにはあらゆる差別をなくすことが含まれ、インクルージョンはその達成に資する考え方として重要視されています。

5つめは、SDGs目標の達成につながるため。

企業が負う社会的責任のなかにはSDGsへの貢献も含まれます。インクルージョンが実現され、多様な個人が尊重されることはSDGsの目標の5「ジェンダー平等を実現しよう」、目標の10「人や国の不平等をなくそう」の達成に資するものです。

## 幹事報告

1. 地区ロータリー学友委員会より、先日開催されました「ロータリー青少年指導者養成プログラム報告書」の送付に対するお礼状が届いております。
2. ロータリー日本財団日本事務局より”財団室NEWS 6月号”が届いております。
3. 国際ロータリー日本事務局より「ロータリー親睦活動月間リソースのご案内」が届いております。

## 例会行事

○社会奉仕委員会

### ＝ 宮崎県南部グループ合同 ローター奉仕デー＝ « 「NPO 法人日南こども食堂」 へお米 150Kg を提供 »



私たちロータリー会員は、「超我の奉仕」の精神を胸に、地域社会に根ざした活動を続けてまいりました。「NPO 法人日南こども食堂」の皆さまのように現場で、子どもたちの食と心の支えとなる活動を地域に積み重ねておられる姿には、深い感動と経緯を覚えます。今回贈られる日南ロータリークラブの「翡翠賞」は、日南市の“市の鳥”であるカワセミ（翡翠）にちなんで名づけられた賞です。カワセミは、澄んだ水辺にしか棲まないことから「清らかな地域の象徴」とされ、美しくも力強く、何度も水に飛び込んで命を育む姿からは、絶え間なく努力を続ける奉仕の精神を感じます。まさに子ども食堂の皆様の活動は、地域の子供たちに寄り添い、静かに、しかし確かな希望を灯すカワセミの姿に重なります。「こども食堂」は単なる食事の提供にとどまらず、家庭や社会の中で孤立しがちな子供たちや家庭に寄り添う、地域の温かな居場所でもあります。その大切な場を守り続ける皆様の努力と情熱は、まさに奉仕の原点であり、地域の宝とも言える存在です。昨今の物価上昇、特に食材の高騰は、こうした活動にも大きな影響を及ぼしていると伺っております。そこで、ささやかではありますが、「こども食堂」の運営にご尽力されている皆様に対して、日南ロータリークラブより社会奉仕賞〈翡翠（カワセミ）賞〉、さらに国際ロータリー第2730地区宮崎県南部グループの合同奉仕賞とを合わせて、お米をお届けすることにいたしました。少しでも活動の助けとなり、子どもたちの笑顔につながればと願っております。

さて、こうした取り組みを社会奉仕として実行された宮崎県南部グループの3クラブの皆さまにも、心から感謝申し上げます。地域を見つめ行動に移す力はロータリー会員らの真価であり、今回の表彰はその象徴でもあると感じております。これからも、ロータリーと地域が手を携え、「ともに生き、ともに支え合う」社会の実現に向けて歩んでまいりたいと思います。今後の皆様の活動が、より一層実り多いものとなりますよう、心より祈念いたします。この度は、本当におめでとうございます、そして、ありがとうございます。

国際ロータリー第2730地区  
宮崎県南部グループ ガバナー補佐  
峰松俊夫

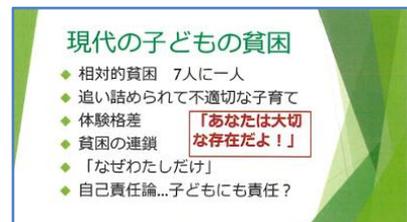
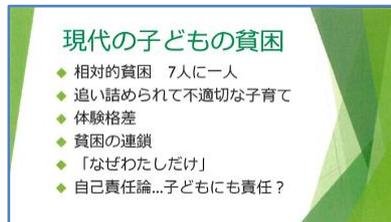
# = 翡翠賞授賞式 =



NPO 法人子ども食堂  
理事長 佐藤泰信様

## 【プロフィール】

昭和 37 年 9 月 18 日 生まれ  
 昭和 60 年 3 月 宮崎大学工学部卒  
 昭和 60 年～平成元年 宮崎県警 警察官  
 平成 3 年～平成 30 年 宮崎県 小学校教員  
 平成 30 年～ 日南・飢肥カトリック幼稚園 園長  
 令和 2 年～ NPO 法人日南子ども食堂 理事長





**事業の成果**

- 定期開催でつながりの場
- 地元高校生の体験の場
- 支援の輪が拡大



**事業の課題**

- 居場所機能の充実 (つながりと有用感)
- ボランティアの確保
- 会員の確保
- 資金確保



**今後の展望**

- 新しい形の居場所づくり
- 地元高校との連携強化
- 他の団体との連携
- 対象を子育て世帯に限定




**今後の展望**

- 新しい形の居場所づくり
- 地元高校との連携強化
- 他の団体との連携
- 対象を子育て世帯に限定

あなたは大切な存在だよ!



## スマイル

- 田島 逸男君 今日6月4日は「歯と口の健康週間」が始まる日です。この機会に皆様も是非お口の健康に気をつけて全身の健康増進につなげてください。
- 古澤 昌子君 お陰様で春の仕込みが終わりました。ありがとうございました。
- 石灘 寛樹君 5/31に泰平踊り本町組保存会の会長になりました。鷹衛さんの今町組ともどもよろしく願い致します。
- 斉藤 篤史君 息子2人が卒部した宮崎工業バスケット部が24年ぶりにインターハイ出場のキップを手に入れました。息子が在籍しているときに行けなかったのは残念ですが、後輩たちが全国の舞台で活躍するのを息子たちは楽しみにしています。

日南中央RC築瀬会長・河野幹事  
串間RC英会長

久しぶりのメーキャップです。本日はお世話になります。  
本日はお世話になりました。

## 出席率報告

	会員数	出席免除	出席定数	H C 出席	M U	欠席	出席	出席率(%)
今週	32	7(3)	29	27	0	2	27	93.10%
出席免除	落丸、清水、渡邊、							
先取M U	甲斐、村社							
欠席	石灘、日高							

事務局887-0014 日南市岩崎3-4-2 Itten 堀川ビル2F 創客創人センター内 TEL0987-22-3363・FAX0987-22-3515  
 会長：築瀬 敦 副会長：斉藤篤史 幹事：石灘寛樹 雑誌会報広報委員長：菊池希樹  
 雑誌会報広報委員会より 情報、原稿は、[admin.pmy06@honda-auto.ne.jp](mailto:admin.pmy06@honda-auto.ne.jp) まで送信してください